なる様になる迄だ

バスは、やがて、平野に出て、
熊本市の方向へ走る。

バスガイドさんが、
熊本や鹿児島の方言を紹介している。
「おらわ、ああたを、すいとっちゃいちゃい」
とかなんとか言って、皆を笑わせている。

今日の目指すところは、雲仙まで。

長い、暑い昼前の数時間を、
ムンムンしたバスの中で過ごす。

前の座席は、補助座席で、
それに足をよせかけて、
体を長く倒して、楽な姿勢で、
再び、目を閉じて、寝る。

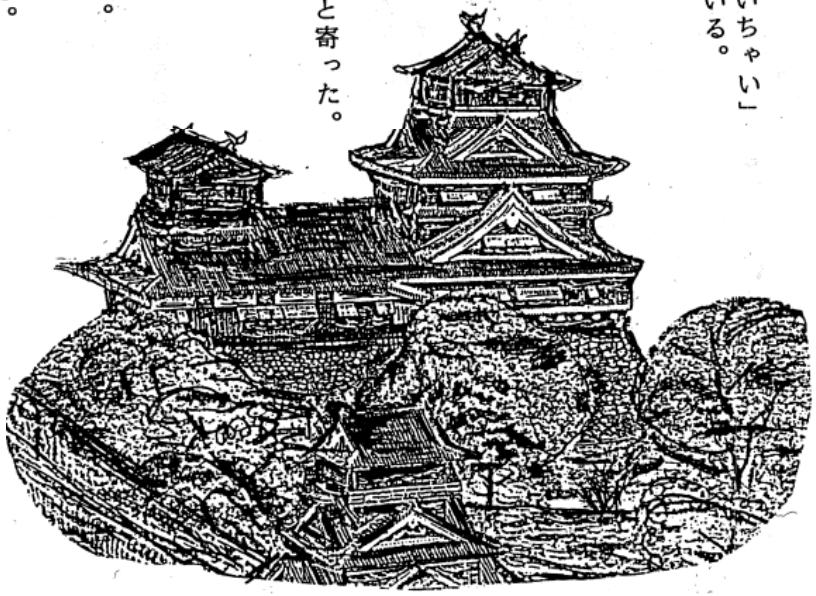
熊本市内を通過し、熊本城にちらっと寄った。

天守閣に登って、外を見ながら、
僕は外を見ていない。

彼女のことが頭に浮かぶ。

「今日着く、しかし、まだ、十時半。
まだ、手紙は着いてない。」

僕は一人、夢想の世界に入っている。



118 なる様になる迄だ・・・